

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	--------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	社会教育課長 福岡 直	電話番号	0852-22-5910
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	子ども読書活動推進事業		
目的	(1) 対象	未就学児、児童生徒、保護者	
	(2) 意図	子ども読書活動を推進することにより、子どもたちの豊かな心を育て、人生をより深く生きる力を身に付けさせる。	
事業概要	子どもと本をつなぐ活動の充実を図り、子どもの読書を支える人を育て、あらゆる子どもに読書を保障する環境を整える。		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位									
1	指標名	市町村子ども読書活動推進計画の策定率（期限切れを含まない）	目標値	63.1	68.4	70.0	70.0	%									
	式・定義	計画策定市町村数÷県内市町村数	取組目標値														
			実績値	47.4				達成率	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	指標名		目標値														
	式・定義		取組目標値														
			実績値					達成率	—	—	—	—	—	—	—	—	—

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	7,605	1,149
うち一般財源 (千円)	7,105	449

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・島根県では、子どもの読書活動を支援するため、家庭、幼稚園・保育所、学校図書館、市町村図書館等や読書ボランティアなど子どもの読書にかかわる様々な人と連携・協力し、読書環境の整備に努めている。  
 ・学校図書館図書標準を達成している学校の割合（小学校38.7% 中学校15.5% 平成26年度）  
 ・読書を全くしない子どもが一定割合存在する。（島根県内の「学校の授業時間以外に、普段（月～金）全く読書をしない児童生徒の割合」…小学生18.0%、中学生27.2%、H27年度）。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

・県教育委員会、公立図書館、読書ボランティア等からなる「島根県子ども読書活動推進会議」を開催し、子ども読書活動の推進のための取り組みについて協議・検討を行い、協議内容を県が取り組む事業に反映した。  
 ・県内3カ所において子ども読書フェスティバルを開催し、子どもの読書活動への理解と取組が県内各地に広がった。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」  
 ・家庭や図書館で全く読書をしない児童生徒がまだ一定の割合で存在する。  
 ・県内市町村の子ども読書活動推進計画の策定率の向上。

②困っている状況が発生している「原因」  
 ・読書習慣の定着は就学前から行うことが有効であるが、未就学児を持つ保護者（祖父母等含む）に対して、家庭での読み聞かせ（親子読書）の効能が十分周知されていない。  
 ・子ども読書推進計画の策定は、法律上は義務規定ではなく、努力規定に留まっている。

③原因を解消するための「課題」  
 ・各種広報媒体を活用したり、関係機関との連携により、未就学児の保護者に対して、家庭での読み聞かせ（親子読書）の普及を図る必要がある。  
 ・未策定市町村に対して、子ども読書活動推進の趣旨を粘り強く伝え、策定するよう働きかける必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・子どもの読書習慣の定着を図るため、市町村のイベントや保育所等の行事など、未就学児の保護者が集まる機会等を利用して、継続的に親子読書を推進する広報活動を行う。  
 ・引き続き、市町村担当課や市町村立図書館の職員が参加する各種説明会・会合等の機会を捉えて、子ども読書活動推進計画の策定及び読書普及の推進等について働きかける。

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）